

第3次千葉県青少年総合プラン 平成30年度事業評価シート

事業NO	40
------	----

事業名	キャリア教育推進事業		
担当課・室・班名	教)生涯学習課	問合せ先(電話番号)	4069

1 事業の概要

柱	I	基本目標	2	基本方策	④職業能力の習得/就労支援の充実					
事業内容	①夏休みなどを活用した学校外におけるキャリア教育・体験活動の機会を、企業等と連携しながら提供する千葉県夢チャレンジ体験スクールを実施する。 ②子供達が親や大人の働く姿に接することができるよう、企業等に「子ども参観日」の実施を呼びかけるキャンペーンを実施する。 ③キャリア教育保護者向けリーフレットを作成し、配布する。									
当初予算額(千円)	H30年度	2,374	R元年度	2,374	R2年度		R3年度		R4年度	
決算額(千円)		2,126								
財源内訳	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源
	○		○							

2 事業実績・評価等

(1)事業の実施結果

①小学生から高校生を対象としたサイエンススクールでは、県立博物館や試験研究機関で科学に関する講座を半日または1日で実施した。中・高校生を対象としたキャリア教育科学・先端技術体験キャンプでは、研究機関や企業・大学等での科学・先端技術体験と研究者等との交流を内容として、日帰り2コースと宿泊1コースの3コースを実施した。中・高校生を対象としたキャリア教育しごと体験キャンプでは、報道や金融機関など様々な分野の企業での就業体験を中心とする内容で、1泊2日を含む5日間で実施した。

②「子ども参観日」キャンペーンでは、平成30年版チラシを作成し、各経済団体及び、ちば家庭・学校・地域応援企業等登録制度登録企業宛てに周知活動を行った。(県庁での実施に加え、県内26企業等84事業所で実施)

③キャリア教育保護者向けリーフレットを高校1年生の保護者向けに作成し、県立および市立の高等学校、特別支援学校へ配布した。

(2)事業の成果

①・参加者の満足度が高く、講座内容が充実していた。(アンケート結果から、サイエンススクール参加者の98.6%、キャリア教育科学・先端技術体験キャンプ参加者の99.0%、キャリア教育しごと体験キャンプ参加者の100%が満足)
 ・キャリア教育しごと体験キャンプでは、充実した事前・事後プログラムにより、参加者の「仕事」に関する意識が大きく変容した。

②県内の企業等に「子ども参観日」の実施を働きかけた結果、22の企業等が継続実施するとともに、4つの企業が新規実施となった。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

①・市町村による募集状況に差があり、応募者数0の町が2つあった。各種広報や応募チラシで公式Twitterの存在を周知したり、送付文に応募チラシの活用方法の具体を明記したりする。
 ・参加者の一部に「話を聞いていない」「道具を傷つける」などの問題行動があった。大学生のボランティアスタッフを増員し、多くのスタッフによるきめ細やかな対応を図る。

②「子ども参観日」キャンペーンについては、同様の取組を実施しているが本制度を知らない企業もあるため、様々な機会をとらえて企業に周知する必要がある。商工労働部と連携を図り、県内の中小企業・小規模事業所の情報収集及び教育CSRの周知を行い、登録推進を促し、登録企業数の増加につなげる。

○参考

関連指標	目標					
	基準年	H30	R1	R2	R3	R4

4 委員意見

5 担当課回答

--	--

第3次千葉県青少年総合プラン 平成30年度事業評価シート

事業NO	43
------	----

事業名	小・中・高等学校のキャリア教育総合推進事業		
担当課・室・班名	教)学習指導課	問合せ先(電話番号)	4060

1 事業の概要

柱	I	基本目標	2	基本方策	④職業能力の習得/就労支援の充実					
事業内容	中学校・高等学校におけるキャリア教育・進路指導の担当者等が、キャリア教育・進路指導の在り方について研究協議、情報交換を行うことにより、今後の指導の充実・改善に資する。									
当初予算額(千円)	H30年度	150	R元年度	150	R2年度		R3年度		R4年度	
決算額(千円)	H30年度	150	R元年度		R2年度		R3年度		R4年度	
財源内訳	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源
	○		○							

2 事業実績・評価等

(1)事業の実施結果

・高等学校においては、6月と11月の年2回、公立及び私立高等学校の進路指導主事を対象として、進路指導の現状と課題について研究協議を行い、教職員の進路指導に関する指導力の向上を図った。
 ・中学校においては、県内5か所で「キャリア教育・進路指導研究協議会」を実施し、大学教授等の講師を招き講演会を実施し、その後参加者が持参したレポートをもとに研究協議を行い、すべての教育活動をとおしてキャリア教育が推進できるよう指導力の向上を図った。

(2)事業の成果

・高等学校においては、研究協議等により教職員の指導力向上から、生徒の就職率を上げることができた。
 ・中学校においては、「職場体験」についての協議が主な内容であった。参加者からは、より効果の上がる職場体験の方法を模索し、日数等を変更して効果を上げる方法や、求人票方式で生徒が自ら事業所を選択し、現実に近づけた方法を実施している取組等、様々な学校の取組に触れることで、今後に向けて大変勉強になったという感想があがった。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

・高等学校においては、就職率は向上しているが、インターンシップの参加率は低下してしまっている。引き続きインターンシップの参加について力を入れていく必要がある。
 ・中学校においては、研究協議会で小学校の実践発表を聴き、小学校の実践を知ったことで「小中接続」の観点から、今後の中学校でのキャリア教育実践をどのようにしていくかが課題として挙げられたが、今後は「キャリア・パスポート」の有効な活用方法を周知していき、「小中高の接続」が円滑に進むキャリア教育を推進していく必要がある。

○参考

関連指標	[キャリア教育の推進] 職場体験・インターンシップを実施している公立学校の割合						目標	中学校 100% 高校 90.0%
	基準年(H28)	H29	H30	R1	R2	R3		
	中学校 97.2% 高校 88.9%	中学校 97.5% 高校 88.9%	中学校 98.1% 高校 87.3%					

4 委員意見

5 担当課回答

--	--